

インテリジェントなデータ カタログでアナリティクス 環境のクラウド移行を迅速化

メリット

- ・ 既存の環境に一切影響を与えることなく、クラウドデータウェアハウス、データレイク、レイクハウスの価値を最大化する
- ・ 複雑なクラウド移行やモダナイゼーション（最新化）のイニシアチブを迅速化する
- ・ 業界先進のメタデータ管理ですべての企業データ資産を可視化する
- ・ 関連データを簡単にクラウドで見つけられる環境をユーザーに提供する

AI搭載のデータカタログと次世代IPAASがクラウドへのデータ移行を加速する

今日、企業によるデータ／アナリティクスインフラストラクチャのクラウドへの移行が急速に進んでいます。クラウドの俊敏性、拡張性、コスト効率性を活用することを目的としたこの移行は、データアナリティクスのあらゆる側面に影響を及ぼすものですが、とりわけ差し迫った影響を受けるのがデータウェアハウジングとデータレイクです。エンタープライズ データウェアハウスは、長年にわたり安定した主力機能として企業のアナリティクスシステムやレポートシステムを支えてきました。それが今、クラウド移行によって最新化を図り、パフォーマンスと競争優位性を大幅に強化するための大きな転換期を迎えています。同時に、多くの組織がクラウドデータウェアハウスと緊密に連携したクラウドデータレイクの導入を進めています。さらに最近では、データウェアハウスとデータレイクの長所をあわせ持つクラウドデータレイクを構築する企業も増えています。クラウドデータレイクでは、BIダッシュボードや高度なAI／機械学習プロジェクトを推進するためのアナリティクス機能を獲得できます。

しかし、クラウドデータウェアハウス、データレイク、レイクハウスを導入することで、新たな課題が発生する場合があります。新しいクラウドデータウェアハウスやデータレイクを立ち上げる作業自体は単純かもしれませんが、投資から価値を最大限に引き出すためには戦略と計画が必要です。

クラウドデータウェアハウス、データレイク、レイクハウスを新しく構築する場合でも、データとワークロードを段階的にクラウドに移行する場合でも、現在のデータ環境を把握および評価すること、そしてクラウドに移行したデータを管理するためのツールとベストプラクティスを用意することが重要です。

Informatica® Intelligent Cloud Lakehouse Data Management Solution for Cloud Analyticsは、業界先進のデータ統合、データ品質、データガバナンス、メタデータ管理を基盤に構築されているソリューションです。Informatica Enterprise Data Catalogはメタデータ管理基盤をもたらします。それにより、機械学習技術を用いたデータ資産ディスカバリとエンドツーエンドの可視化が実現され、自社のデータ環境を把握できます。Informatica Intelligent Cloud ServicesSM (IICS) では、クラウドデータ統合、クラウド大量取り込み、クラウドデータ品質に関する、市場をリードするエンタープライズiPaaSサービスを利用できます。

Informatica Enterprise Data Catalogは、包括的なメタデータ管理をベースに構築された機械学習機能により、全社レベルのメタデータ基盤を実現し、環境全体にわたる可視性とリネージをインテリジェントかつ自動的に、エンドツーエンドで確立できます。このソリューションにより、オンプレミスのデータストアと最新のクラウドエコシステムを連携させて、データ利用者の業務を中断することなく、最大限の価値を引き出すことができます。

主な機能

広範なメタデータ接続性

インフォマティカのインテリジェントなデータカタログソリューションは、Amazon Redshift、Amazon S3、Microsoft Azure Synapse Analytics、Google BigQuery、Snowflake、Databricksなど、主なクラウドエコシステムおよび最新のデータウェアハウス、データレイク、レイクハウスと統合可能です。また、数百ものクラウドアプリケーション、オンプレミスシステム、エンタープライズアプリケーション、ミドルウェアアプリケーション、データストア、分析BIツールとのカスタマイズ不要なメタデータ接続性も備えています。

機械学習ベースのデータディスカバリ

CLAIRE[®]（インフォマティカのメタデータ主導の人工知能エンジン）により、技術データ、業務データ、運用データ、利用データにAI/機械学習アルゴリズムを適用して、複雑なファイルやメタデータを自動的に把握および解析できます。これにより、保存場所（ハイブリッド環境やマルチクラウド環境など）を問わず、データを探索できます。

エンドツーエンドのデータリネージの自動化

リネージにより、概要ビューと詳細ビューを通じて、データのソース、動き、変化を把握できます。ハイブリッド環境とマルチクラウド環境にわたるエンドツーエンドのデータリネージにより、データをソースからターゲットまで追跡して、データの使用方法や依存関係を把握できます。Informatica Enterprise Data Catalogでは、上流および下流のデータ資産に対して詳細な影響分析を実施できます。その結果、データ資産、リソース、ユーザーに対する移行の影響を簡単に理解できます。また、詳細なデータリネージに基づく影響分析により、特定のデータ資産やワークロードをクラウドに移行するコスト面のメリットを示すこともできます。

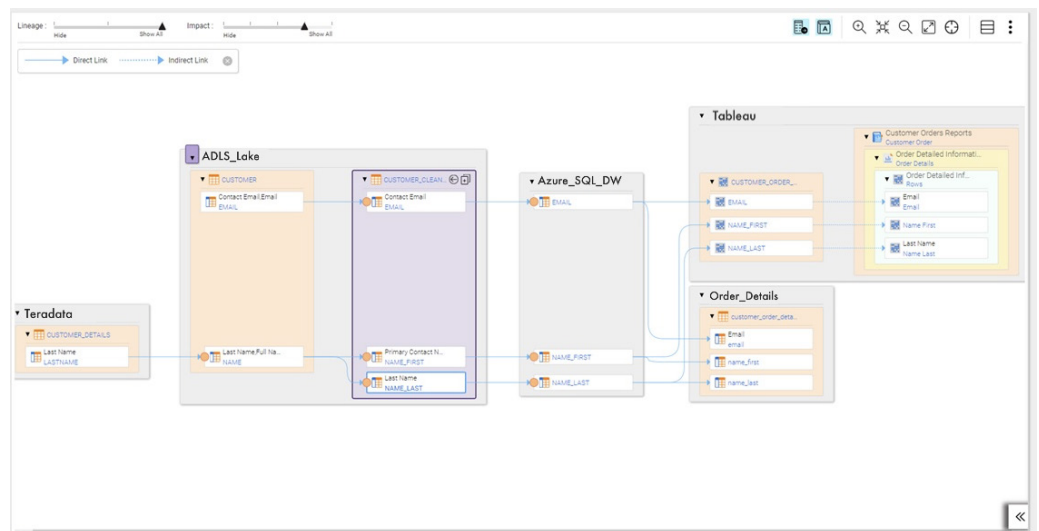


図1. オンプレミス、クラウドデータウェアハウス、データレイク、レイクハウスのエンドツーエンドのデータリネージを簡単に表示。

コラボレーションとソーシャルキュレーション

通常、データをクラウドデータウェアハウス、データレイク、レイクハウスに移行する際には、複数の利害関係者およびユーザーが関与することになります。Informatica Enterprise Data Catalogのコラボレーション機能とソーシャルキュレーション機能を使用すれば、データの所有者と各分野の専門家がデータ資産を認定し、移行すべきデータを特定できます。さらに、データの利用者がデータ資産の評価とレビューを行い、カスタムの属性と注釈を追加することで、移行中も移行後も信頼できるデータを簡単に検索できます。

クラウドデータ管理サービスとの統合

Informatica Enterprise Data Catalogは、クラウドデータウェアハウス、データレイク、レイクハウスのための重要機能を備えたIICSデータ管理サービスと統合されます。IICS Cloud Data Integrationは、マルチクラウド環境でのETL、ELT、データ取り込み、同期化、複製を行うための高性能機能を備えています。IICS Cloud Mass Ingestionでは、ストリーミング、ファイル、データベースをクラウドデータウェアハウス、データレイク、メッセージキューに取り込むことができます。IICS Cloud Data Qualityでは、データのプロファイリング、クレンジング、標準化を行い、データ品質に関する問題を迅速に監視および修正できます。IICS内のInformatica Enterprise Data Catalogを使用すると、データの探索と選択、データソースとマッピングの表示、データ品質ルールとスコアカードの表示に加え、エンドツーエンドのデータリネージを包括的に可視化できます。

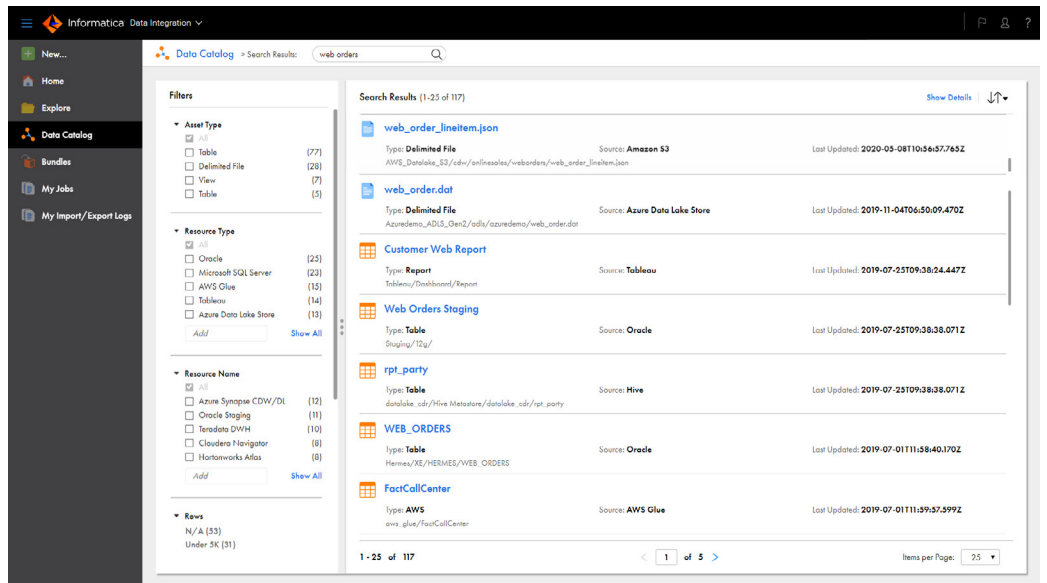


図2. IICS内のInformatica Enterprise Data Catalogでデータを探索および選択。

事前構成済みのマッピング

事前構成済みのマッピングテンプレート、データの複製と同期化を行う使いやすいタスクウィザード、大容量ワークロードに対応する大量データ取り込みを活用して、より多くのデータをより短時間でクラウドに移行できます。Informatica Enterprise Data CatalogとIICSのシームレスな統合により、コーディング不要の単一のインターフェイスを使用して、移行したいデータを特定し、クラウドデータウェアハウス、データレイク、レイクハウスに簡単に移行できます。IICS Cloud Data Integrationのビジュアルデザイナーを使用してデータカタログを「購入」し、数回のクリックで単純または複雑なデータロードを構築して、クラウドおよびオンプレミスにある複数のエンドポイントを接続したり、データを変換したり、分析ワークロードのスケジュールを設定したりできます。

主なメリット

既存の環境に一切影響を与えることなく、クラウドデータウェアハウス、データレイク、レイクハウスの価値を最大化

データ環境を総体的に評価することにより、移行または連結すべきデータ、さらにはクラウドデータウェアハウス、データレイク、レイクハウスの価値を最大限に引き出す方法を把握できます。エンドツーエンドのデータリネージにより、データの関係と依存を可視化できます。データの利用者は、セルフサービス式のアクセスを通じて、アナリティクスに使用するデータを簡単にクラウドで見つけることができます。Informatica Enterprise Data Catalogにより、オンプレミスデータウェアハウスの構造とスキーマをクラウドに移行できるため、移行中および移行後の中断を回避できます。移行が完了したら、エンドツーエンドのリネージにより、データが適切にマッピングされていることを確認できます。また、メタデータ主導の自動データディスカバリおよびキュレーション機能により、拡張可能なデータガバナンスを実現し、信頼できるデータをクラウドに配信できます。

複雑なクラウド移行やモダナイゼーション（最新化）のイニシアチブを迅速化

クラウド移行とモダナイゼーションに要する時間を大幅に短縮できます。移行または連結したいデータを探索して、視覚的なマッピングデザイナーを使用して単純または複雑なデータ統合ロードを構築できます。このマッピングデザイナーでは、事前構成済みの変換を用いてクラウドおよびオンプレミスの多様なエンドポイントを接続し、開発を迅速化できます。

業界先進のメタデータ管理ですべての企業データ資産を可視化

データの価値を引き出すには、まずデータを探索して把握する必要があります。インフォマティカのソリューションは業界先進のメタデータ管理機能を備えており、クラウドベースシステムおよびオンプレミスシステム向けの数百ものコネクタを活用できます。メタデータ主導のインテリジェンスを通じて、組織内のすべてのシステムを対象に、データの保存場所と利用場所を特定し、すべてのデータをエンタープライズ クラウド データウェアハウス、データレイク、またはレイクハウスにシームレスに移行できます。さらに、データセットやサブセット間の関係や依存に関する重要なメタデータをキャプチャおよび保存し、データの移行中および移行後、クラウドでのモダナイゼーションの実行中および実行後にわたり、その関係を維持できます。

インフォマティカについて

デジタルトランスフォーメーションによって我々の期待値が変化しています。より良いサービスを、素早く、便利に、低コストで利用したいという期待が高まっているのです。企業も状況に応じて変化する必要があります。そしてそのヒントは「データ」にあります。

エンタープライズ向けクラウドデータ管理で世界をリードするインフォマティカは、俊敏性の向上、新たな成長機会の獲得、新しいソリューションの開発を実現するための洞察を通じて、あらゆる産業や分野の企業がインテリジェントにビジネスをリードできるよう支援します。インフォマティカは、あらゆるデータを徹底的に重視し、企業の成功に必要なとされる汎用性を提供します。

インフォマティカは、企業がこれからのインテリジェントな破壊的イノベーションを推進できるよう、当社が提供するあらゆるサービスを通じてデータの力を継続的に引き出すことを支援します。

関連性と信頼性に優れたデータをクラウドで簡単に検索

データをクラウドに移行すると、データの利用者が、業務に必要なデータを見つけられなくなることがあります。また、ブックマークしたリンクや定期的に生成するレポートが壊れてしまうこともあります。そのような場合、より適正なデータがクラウドにあるにもかかわらず、データの利用者は、使い慣れたオンプレミスソースのデータを利用することになります。データアナリストやデータサイエンティストも、データの保存場所や各自のニーズに最適なデータ資産を把握する必要があります。Informatica Enterprise Data Catalogを使用すれば、IT部門の支援を受けることなく、必要なデータをユーザーが簡単に見つけることができるため、ボトルネックや非効率性を回避できます。

今後のステップ

詳細については、『[Informatica Enterprise Data Catalogデータシート](#)』およびソリューション概要『[データウェアハウスとデータレイクをクラウドで最新化](#)』をお読みください。



〒105-6226

東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階 電話：03-6403-7600（代表）FAX：03-3433-1021

IN17_0620_03625

© Copyright Informatica LLC 2020. Informatica, Informatica ロゴ, Informatica Intelligent Cloud Services, および CLAIRES は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新版は、<https://www.informatica.com/jp/trademarks.html> をご覧ください。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。